

こうじ
工事の
げんば
現場より

いま ようす
今はこんな様子だよ。



解体こぼれ話

たいしんほきょう こうじ 耐震補強工事のため、室内では解体作業が進められています。臨春閣の華やかな室内が一変、どの建物の内部だろう？ と一瞬戸惑ってしまう光景です。しかし解体作業は発見の連続！ 建築時や移築時・修理時の記録、詳しい構造や構法など、バラバラにしていくことで初めてわかることがいっぱい！ 解体現場ならではの楽しみ、ご紹介します。

かいたいまえ
解体前

らんま ふすま しょうじ たたみ とりはず
欄間・襖・障子・畳の取外し
ゆか かべ てんじょう かいたい
床・壁・天井の解体

おく へ や すみのえ ま とこ ま
奥の部屋（住之江の間）の床の間
しょうへきが と はず
の障壁画は取り外していません。
かいたいさぎょう て ほこり よご
解体作業で出る埃で汚れないよう、
おお しろ かみ
覆い（白い紙）をかけています。

げんざい
現在

しょうへきが さぎょう
▲障壁画のめくり作業

しょうへきが したじ
▲障壁画の下地の
しっくいかべ
漆喰壁。

きずり かべ
木摺壁とは？

うす はば せま き いた きずり
薄く幅の狭い木の板（=木摺）を
すきま あ なら かべ わく と
隙間を空けて並べ壁の枠に止め
て、その上しっくいなどで塗りこめ
た壁

さんこう こまい かべ
参考：小舞壁

たけ ぼそ き こうじょう
竹や細い木を格子状
に並べ編んだ下地
こまい かべ
（小舞）に壁を塗り
つけたもの。木摺壁
より頑丈。

しゃかんや
左官屋さんによると、
きずり よこむ いちばんよ
木摺は横向きが一番良いそ
う。こんなに色々な向きが
いろいろ む
あるのは、手間のかかる作
てま さ
業だし、珍しいんだって。
ぎょう めずら
昔の職人さんが試行
むかし しょくにん しこう
さくご
錯誤したのかな。



しっくいかべ かいたい あらわ きずりしたじ
▲漆喰壁を解体して現れた木摺下地。タテ・ヨコ・ナナメ様々。
いちぶ ぶざい しょうわ ねんしゅうり せんごふっきゅうしゅうり きろく する
一部の部材に昭和 30 年修理（戦後復旧修理）の記録が記されていました。

きずり かいたいじょうきょう
▲木摺の解体状況。